

令和元年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立東吉川小学校
-----	------------

1 学校教育目標

(1)学校教育目標	未来夢みて 共に学び続ける 元気な子の育成 (校訓; 考える子 思いやる子 元気な子)
(2)目指す児童像	心豊かに主体的に行動する児童
(3)目指す教師像	子どもや学校・地域を愛し、人間味あふれ、家庭や地域から信頼される教師 豊かな発想を持ち、常に自己研鑽に努める教師 教師としての使命感を持ち、強い情熱を持って教育に臨む教師

2 本年度の重点目標

(1)職員研修の充実を図り、教師としての力量を向上させることで、児童の思考を深める授業を創造する。
(2)教師間の教え合い伝え合う機会を多く設け、若い世代への伝達を図る。
(3)保護者・地域指導者・関係機関等と連携して、ふるさとを愛し、誇りに思う人づくりを進める。

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	<p>●確かな学力を育成する 学習意欲の向上や学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数を活かした取組や細やかな指導による基礎学力の向上 ・学校生活全体を通した言語活動の推進 ・対話活動を軸にした学びを深めるための授業づくりの推進 ・家庭と連携した読書習慣の確立を図る取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るとともに、課題の設定や発問の工夫等により学ぶ意欲を高める授業づくりができた。 ・授業や朝会発表・集会において伝え合う場を意識して設定することにより、対話の力がついてきた。 ・学年ごとに話す・聞くときの目標を毎月設定し、言葉や姿勢などの定着を図るとともに、授業での対話を促す言葉かけを共通理解して、対話の力を高めていった。 ・読書ファイルや親子読書の取組の継続と委員会活動や図書館と連携・年間カリキュラムを改善し、特別の教科道徳の教科書やノートを活用した授業を行った。 ・豊かな心を育てるために家庭でも兵庫版道徳教育副読本を活用し、親子で話し合う機会を2回設けた。 ・地域の方々や老人クラブ・こども園との活動を継続して、様々な人と関わる「楽しさ・喜び」を味わわせ、温かい人間関係づくりを進めた。 ・スマイル班(異年齢集団)活動・ぼっかぼか週間(人権集会・人権の花「良いところ見つけ」交流・親子ふれあい道徳授業)等を通して、自分や 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・めざす子どもの姿をより具体的に意識するとともに、学習の振り返りや評価を活かし、児童が自ら進んで学びに向かう力を育成する。 ・対話力を高めていくために、朝会発表等の内容を工夫する。 ・新学習指導要領に沿ったカリキュラムの改善とより細かな個に応じた指導を進める。 ・読書の取組の継続と変化のある活動を進め、家庭での読書推進の工夫を行うことで読書習慣を定着させる。 ・特別の教科道徳の授業づくりの改善を継続するとともに、道徳性を養うことにつながる評価の在り方について研修を深めていく。 ・学校と家庭が連携をより深めて親子話し合い活動を充実させていけるよう、兵庫版道徳教育副読本の活用を継続する。 ・温かい人間関係づくりをめざした体験活動となるよう事前・事後の指導を充実させる。 ・年間計画を見直し、スマイル班活動・ぼっかぼか週間を活かした仲間づくりを推進していく。
道徳・人権教育	<p>●自他の生命を尊重する道徳的実践力や豊かな人権感覚の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科道徳の年間カリキュラムの実施と改善 ・兵庫版道徳教育副読本を活用した親子話し合い活動の推進 ・人の生き方に学び、自尊感情や人権感覚を養う活動の充実 ・学校と家庭が連携しながら、自分や他者を大切に作る仲間づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期生活アンケートを実施し、実態把握を行ったのち、児童との面談で解決に向けた具体的な話をするこで、いじめの未然防止や児童理解ができた。 ・あいさつ運動を継続することで、意識してできる児童が増えてきているものの、校内だけでなく校外でもすすんであいさつできるよう指導を継続していく必要がある。 ・生活リズムカードの内容をもとに、児童と話をしたり、保護者と連絡を取ったりすることで、生活リズムの改善を図った。 ・校内での定期的かつ日常的な児童の情報交換に加え、保護者・関係機関とも連携を密にし、問題行動の早期発見・早期対応を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校いじめ防止基本方針を見直し続け、今後も職員一丸となり、いじめ未然防止・早期発見に向けた取組を進める。 ・あいさつについては、校内だけでなく校外でもすすんであいさつができるよう指導を継続していく。 ・生活リズムカードを活用し家庭・地域とさらに連携し取り組む。 ・今後も日常的な児童の情報交換を大切に児童理解を深めるとともに、生活アンケート等を効果的に活用し、個々の実態把握のもと、適切な支援体制を推進していく。
生徒指導	<p>●自己肯定感をもち、自分の居場所が実感できる支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ、問題行動、不登校の未然防止や早期発見・早期対応に向けた実態把握や児童理解の推進 ・あいさつの意識づけと生活リズムを見直す指導の工夫 ・児童・保護者、担任、スクールカウンセラー等が連携した体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童について、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を立て、定期的に児童の情報交換を行った。 ・個々の児童の課題や教育的ニーズについて、日常的に全職員で共通理解を図り、効果的な支援や合理的配慮についての研修を行った。 ・連絡帳を通して情報交換を行ったり、定期的に懇談を行ったりして、保護者との連絡を密にし、本人の願いも聞きながら個に応じた支援につなげた。 ・スクールカウンセラー、通級指導員や関係機関と連携し、効果的な支援や配慮について助言を受け、日常的な支援に活かした。 ・計画的に交流学習を実施し、ユニバーサルデザインの視点を大切に 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・切れ目のない支援体制のもと、特別支援コーディネーターを中心に校内委員会や校内研修会を定期的に開催し、適切な指導・支援のあり方について共通理解を深める。 ・継続して関係機関、保護者と連携し、支援が必要な児童について保護者との合意形成を図り、効果的な支援の在り方を探る。 ・交流学習やユニバーサルデザインの視点に配慮した授業づくりを継続する。
特別支援教育	<p>●一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な児童についての実態の把握と適切な指導、必要な支援のあり方を全職員で共通理解 ・保護者や関係機関との連携を図った支援体制の推進 ・一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育に関する教職員研修のさらなる充実 ・交流学習やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの地域の方を講師に招き、「ふるさと学習」に取り組み新たな教材・単元開発を行うことで、吉川の魅力を知ったり、再発見したりすることができた。 ・生活リズムカードを通して、家庭と連携しながら学習習慣や生活習慣の定着に向けた支援を行った。 ・PTAや人の目の垣根隊と連携した登下校見守り等により、安全・安心の教育環境づくりができた。 ・児童の学校生活の様子を伝えるため、通信やWebページの積極的な発信に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を活用し「ふるさと学習」を充実できるように、教材・単元開発と人材発掘等に向けた体制をさらに整えていく。 ・主体的な学習習慣や生活習慣が身に付くよう、生活リズムカードを効率よく活用する。さらに、家庭と連携が取りやすいものとなるように内容の改善を図る。 ・今後もよりよい教育環境づくりを推進していけるよう様々な機関との日常的な意見交換の場を大切にする。 ・今後も学校公開の場だけでなく、普段の児童の学校生活の様子が見える通信やWebページの積極的な発信
家庭・地域との連携	<p>●保護者、地域と連携した教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然・人材・文化・施設と学校とをつなぐ「ふるさと学習」の教材・単元開発と人材発掘 ・家庭と連携した学習習慣や生活習慣の充実 ・PTAや人の目の垣根隊・地域住民と連携した学校・地域の教育環境づくりの推進 ・学校通信・学級通信やWebページ等の学校情報の積極的な発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業の公開と事前研究・事後研究を通して、授業力を高めるための意見交流をし、教師の力量を上げることに努めた。 ・体育や理科の実技研修や外部研修会参加者による伝達研修、講師招聘による講話を活かし、専門性の向上に努めた。 ・全職員が業務改善を意識し取り組み、会議の削減や短縮、定時退勤日の実施を進めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを意識した授業づくりに取り組んでいけるように、積極的に授業公開を行っていく。 ・新学習指導要領実施に沿った、特別の教科道徳・外国語(活動)・プログラミング教育等、様々な機会を通して、一人一人の力量を高めていく。 ・ゆとりやワーク・ライフ・バランスにつながる業務改善をさらに進めていく。
教職員の資質向上	<p>●強い情熱を持って教育に臨む教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる指導力向上を目指した積極的な授業公開と実践交流 ・授業研究や専門性向上に向けた研修会等への積極的な参加と伝達研修の機会の設定 ・全教職員で取り組む学校業務改善の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の力量を高めていく。 ・今後の方策も、明確に示されている。今後も組織力を活かした特色ある東吉川小学校ならではの取組の継続を期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・めざす子どもの姿をより具体的に意識するとともに、学習の振り返りや評価を活かし、児童が自ら進んで学びに向かう力を育成する。 ・対話力を高めていくために、朝会発表等の内容を工夫する。 ・新学習指導要領に沿ったカリキュラムの改善とより細かな個に応じた指導を進める。 ・読書の取組の継続と変化のある活動を進め、家庭での読書推進の工夫を行うことで読書習慣を定着させる。 ・特別の教科道徳の授業づくりの改善を継続するとともに、道徳性を養うことにつながる評価の在り方について研修を深めていく。 ・学校と家庭が連携をより深めて親子話し合い活動を充実させていけるよう、兵庫版道徳教育副読本の活用を継続する。 ・温かい人間関係づくりをめざした体験活動となるよう事前・事後の指導を充実させる。 ・年間計画を見直し、スマイル班活動・ぼっかぼか週間を活かした仲間づくりを推進していく。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<p>・観点毎に「3者(児童・保護者・教職員)アンケート」結果を基に集約・比較し、わかりやすくまとめられており、適切な評価がなされている。</p> <p>・昨年度との比較をみると、アンケート結果は昨年度より全体的に高くなっている。改善の方策を活かした取組が実を結んだことがうかがえる。</p> <p>・項目によっては、保護者と児童の結果に隔たりがある。例えば、あいさつへの働きかけの基準が家庭によって差異があるので、目を向けていくことが必要である。</p> <p>・小規模校の利点をいかしたきめ細やかな学習支援や生活支援がなされていることが来校時の児童の姿にあらわれていると感じていたが、本会で取組状況を知ることにより、納得につながった。</p> <p>・今後の方策も、明確に示されている。今後も組織力を活かした特色ある東吉川小学校ならではの取組の継続を期待する。</p>
--

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>【学習指導】</p> <p>○学習指導における自己評価Bは、(Aに近いと認識しているが)適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年「学びと感謝のつどい」では、一人一人が活躍し、堂々と発表する姿に感激させられる。今年も、学年それぞれの成長ぶりに目をみはった。 ・今後も対話活動を軸とした工夫ある取組が朝会発表をはじめ、日常的にも学校生活全体を通して実施されることを期待する。 ・読書量の多さは今まで継続してきた環境づくりや家庭との連携の賜物である。今後も進んで読書を楽しむ中で読書習慣がさらに身につくように取り組んでほしい。 <p>【道徳・人権教育】</p> <p>○道徳・人権教育における自己評価Bは、(Aに近いと認識しているが)適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭との連携を活かし、道徳の授業をはじめ、学校教育活動全体を通して道徳性や人権感覚を養う機会をさらに充実させていけるとよい。 ・日頃のスマイル班活動をはじめとする温かい関わり合いを通して、自分は大切にされていると実感できる取組を今後も継続してほしい。 <p>【生徒指導】</p> <p>○生徒指導における自己評価Bは、(Aに近いと認識しているが)適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校いじめ防止基本方針の見直しや問題行動及びいじめ未然防止・早期発見につながる学期毎の生活アンケート後カウンセリング面談等で、児童と向き合う丁寧な取組を今後も継続していけるとよい。 ・あいさつの励行の取組を通して「人とつながる第一歩」の意識をつけてほしい。 ・高学年を対象としたSNSを通じたトラブル防止啓発のための授業等の機会を今後も継続してほしい。 <p>【特別支援教育】</p> <p>○特別支援教育における自己評価Aは、適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な児童については、今後も本人や保護者の願いを大切に、日常的な校内体制を活かした適切な支援をすすめてもらいたい。 ・様々な特性を持つ児童がさらに増えていくと思われる。必要に応じ関係機関と連携し、個の特性を把握した適切な指導支援を期待する。 <p>【家庭・地域との連携】</p> <p>○家庭・地域との連携における自己評価Aは、適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までと同様に「ふるさと学習」の活動時はもちろん、東吉川小学校の児童の成長のため、惜しみなく力をそえていきたいと考えている。同じ思いで見守って下さる方もたくさんいる。地域の強みといえる教育力を活かして、今後も自立心を育てる「ふるさと学習」を充実させてもらいたい。 <p>【教職員の資質向上】</p> <p>○教職員の資質向上における自己評価Aは、適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に求められているニーズが多様化していることもあり、先生たちもその対応に追われたり、資質向上のための研修に取り組んだり、忙しい日々の中、熱意を持って児童の指導にあたっている姿に感謝している。 ・方策として挙げられているワーク・ライフ・バランスにつながる業務改善に取り組むことを